

南あわじ市保育所のあり方検討委員会(第4回)議事【要旨説明】

日 時 平成26年1月14日(火)午後7時

場 所 南あわじ市役所緑庁舎 第2会議室

1 開 会

2 あいさつ

委員長

皆様、明けましておめでとうございます。

いよいよ、26年度に入りまして、国の方も子ども子育て会議で、幼稚園・保育所関係につきましては、戦後一番大きな制度改革に向けて進行しているわけではありますが、我々は、南あわじ市において保育所が今後どうあるべきかを検討しております。

では、先だつてのアンケートの速報値に基づいて、色々と議論して頂ければと思いますので、宜しくお願いいたします。

3 議 事

(1)アンケート調査の集計結果(速報値)について

委員長

アンケートの調査結果が出ておりますので、まず、事務局の方より説明をお願いいたします。

事務局よりアンケート集計結果の説明

委員長

ありがとうございます。

これは、あくまでも単純集計ではありますが、まず、95%の回収率は素晴らしいと思います。保護者の意見は、まんべんなく、吸収出来ているのではと思います。また、自由記述では、固有名詞を除くすべての意見が取り上げられております。統廃合・民営化・幼保一体化についての意見を書いておりますが、賛否両論ありますので、この辺りはしっかりと確認しておきたい所ではありますが、さしあたって、速報値についてお気づきの点、議論のきっかけとなる点はありますでしょうか。

問3-2では、今現在の通っている保育所は、全体として満足しているという事が基本的には伺えます。

給食の評価は、「良い」が多かったのは意外ですね。気がかりな部分は、

「回答がない」部分（3分の1ぐらい）ですかね。保育サービスでは、休日保育や早朝保育、病児病後児保育等ありますが、だいたいどのようなアンケートをとっても、病児病後児保育はいつも希望者が多いです。実際、病児病後児保育をやっている所は少ないですし、これは、登録も必要となり、「今、調子が悪いからすぐに預けたい」という訳にはいかないです。

委員

病後児保育は実施している保育所もありますが、病児保育については極端に少ないです。

委員長

土曜保育に関しては、都市部では、土曜終日保育になりつつあります。逆に、土曜日は昼までという保育所が少なくなってきています。統廃合については、アンケートの仕方の課題もあったかもしれませんが、どうでしょうか。

委員

問6に関してですが、保育所の人数が特に気にならないというのが半数以上を占めています。「少ないと不安」が135名、「多いと不安」が216名いらっしゃいますが、例えばここをもう一つクロス集計して頂くと、実際に今、少人数の保育所に通わせている保護者が「少ないと不安」と感じているとは言えないと思いますし、逆もまた然りだと思いますので、再度クロス集計をお願いしたいです。

委員長

他にはどうでしょうか。自由なご意見を頂ければと思いますが。

副委員長

アンケートの自由記述については、当日報告では、意見出来ません。自由記述も多いので、可能であれば、1日か2日前に送って頂いて、読んでからの会でなければ発言は難しいので、その点が少し残念です。

委員長

おっしゃるとおり、様々な意見がありますので、じっくりと読む時間が必要だと思いますが、今現時点で、何か意見がありましたら伺いたいのですが。

委員

子どもを幼稚園へ通わせている保護者としては、保育所へ通わせている保護者の考え方は、全然違うのだなと思いました。先程お話にありましたが、以前、保育所と幼稚園の人事交流で、保育所の園長先生が幼稚園にみえられた時に、食育にすごく力を入れられていた事を覚えています。給食が良いというのが、アンケート結果に出ているのは、大切な事だと思いました。

委員長

保育所は以前から食育に力を入れていました。幼稚園でも教育要領の中に、「楽しくみんなで一緒に食事をする（食べる）」という項目が、2008年に新たに入りました。ですので、幼稚園の方も、だんだんと食育を大事にするようになってきていると思います。

副委員長

私は、以前から関心が高いのが、民営化の問題でありました。これについて、保護者がどのように考えているのか大変興味がありました。このアンケートの中で、唐突に「民営化についてどう思いますか」という質問があるので、保護者は答えられないのではと思っておりましたが、この結果を見ると保護者の方は色々と考えて、回答されていることに驚きました。これらが、保護者の実直な意見であるのかなと思いました。

委員

一番最後の問 16 で「何かご意見があればご記入下さい」とありますが、ここまで多数のアンケートがあったにも関わらず、たくさんのご意見を頂いており、真剣にアンケートにお答えされているので、これらの意見は、大事だと思います。

委員長

最後の自由記述で幼保一体化は、我々の保育所のあり方について考えるという所では、必ずしも問題ではないかと思いますが、統廃合と民営化について意見を書かれているのが多々あったのは重要だと思います。

今日は、これを見た上で、再度、この委員会の機会を持ちたいと思います。

(2)その他について ※議論の方向性について

委員長

本日は、委員の方から委員資料が出ておりますので、これについて、ご説明頂けますでしょうか。

委員

南あわじ市では、圧倒的に民間が少ないという事もありますので、保護者の皆様に、民間についてもっと知って頂きたいという思いがあります。本資料は、その点と、民間移管の流れについて、今後の検討材料の1つにして頂きたいという狙いをもって、ご用意させて頂きました。

委員から資料説明

副委員長

1つ質問させて下さい。神戸市では、保育所の公立と民間との比率、並びに幼稚園の関係も含めてどのようになっていますか。

委員

平成18年の時には、保育所の公立が80、民間が90でほぼ同じとなっています。幼稚園は、公立が40、民間が90位です。本資料は、全て保育所みのデータです。平成25年度の保育所は、公立が60、民間が150となっています。

委員

民間になった場合、経営不振に陥った場合は、どうなるのでしょうか。

委員

収益自体が分からないということはあり得ないと思います。民間も公立も年に1度は行政監査を受けていますので、経営状況も含めて行政側も把握していますので、急に倒産はあり得ないです。フェードアウトしていくという中では、公が責任を持つという形になっています。

健康福祉部長

民営化する場合、相手側が決定して協定を結ぶわけですね。運営について、もしそういう事態が想定される場合は、やはり、何らかの協定で市が対応しなければいけないのか、受託した法人で対応しなければならないかど

うかは、取り決めではないのでしょうか。

委員

そうです。

委員長

予想されるのは、子どもの数が減ってくるという事です。子どもの数が減ってきた場合は、定員数の変更をすることにより、子ども 1 人あたりの単価が上がってくるので、運営費の総額が少なくならないよう、措置はされています。

健康福祉部長

運営がしやすいような保育所を対象として民営化する手立ては必要だと思います。まったく経営が将来的に成り立たないような園については、民間へゆだねる方向ではないと思います。やはり、市の保育所でもある程度限られてくると思います。色々な手法を用いて、より良い子育て支援に回せるという事が前段であると、何度も言ってくれている訳です。もちろん、民営化は、デメリットもメリットもあります。そのような事を理解してもらうために、色々な情報を提供していかなければならないと思います。市は、民間の保育所が圧倒的に少ないので、市の保護者の方々は、知らない事が多いわけで、不安があるのは当然であり、このようなアンケート結果が出てきているのだと思います。きめ細かな情報提供は、必要だと思います。

委員

今回のアンケートで色々な保護者の意見が出てきましたよね。これらの意見に沿えるような保育のあり方というものは、例えば、行政が責任を持って検討して頂く必要があるでしょう。民間での不安の保証は行政がやっていくという事の部分の議論はこれからの議論とすべきだと思います。今回、これほど、保護者の皆様がお子さんの保育についての関心の高さを示してくれている訳ですが、行政としてはこれを断片的なあるピンポイントで終わらせるというのはもったいない気がします。こういったものを取りかかりにして、また、継続していく事で、政治や行政のあり方に関心を持っていただく等、そういう意味で、このアンケートの意見を大事にして、セクションを超えてそのような思いを大切にしていければと思います。これだけの自由記述のあるアンケートは見たことがありません。

副委員長

今、言われたように、行政のほうで十分意見を届けてもらえるのであれば、ありがたい話です。

委員

行財政改革と全く逆の話をしますが、行政職員もそれだけ受け答えできるだけの人員を確保しないといけないのではと思います。

アンケートの集計が遅いのではないかとのお話もありましたが、職員数も増やしてあげてほしいというのがあります。

委員

アンケートに回答した側としては、どのような結果が出たのかというのは興味のある事だと思います。他にどのような保護者の意見があったのか等。

事務局

自由記述については、施設・人物が特定される部分に関しては、未公表とさせていただきます。その他に関しては、精査して何らかの形では、公表を考えています。

委員長

一般的にアンケート結果を公表する場合は、主な意見という形でピックアップする事が多いです。今、色々なお話を頂いた中で、我々としてはやはり、これからの保育所のより良いあり方を考えていく。そして、民間移管等も選択する1つの手法ではあると思います。それこそ、地域の人口が減っていく非常に厳しいところにも、きちんとした形で、市の直営の保育所のようなものが必要となってくる事もあるかと思えますし、全体として、地域の子どものためになる、より良い保育所のあり方を求めて行って、それを提言していく事かと思えます。そういう意味で、もう一度、議論をそこに集約して、これからも考えていきたいと思えます。本日は、色々とお話がありましたが、これを見て、じっくりと我々の方で、保護者の考え方や意見を飲み込んで、もう一度、この会議をしたいと思うのですが、それでよろしいでしょうか。この会議も、出来れば年度内にまとめていきたいというのはあるのですが、やはり、こういうものを我々がきちんと確認しながら、こういうところから今後の方向も見出していけるかと思えます。

委員

私は、子どもを私立の保育園に通わせていますが、毎日充実して笑顔で帰ってきています。保育所の行事にも色々と参加させて頂いた事もありますが、このアンケートを見ていると、保護者の不安や理解不足なところは多々あるように思います。そういうものを知って頂くために、見学会とかも実施していけば、理解を得られるのではないかと思います。

健康福祉部長

今年度末に基本的にはまとめたいという事ですので。

委員長

あまり時間を持ってないのですが、もう1~2回でいいですよ。

委員

最終的には答申は必要ですよ。

事務局

はい。

委員長

今の認定こども園が幼稚園・保育所の保育の1つの展開系・発展系であるのですが、両者の働きを合わせようというわけですから、市では、旧西淡町以外は、幼稚園がほとんどありませんので、このような区域では、例えば他の市の手法としては、公立の保育所が集まって、もしくは単独で認定こども園になっていき、幼稚園ニーズも保育園ニーズも満たしていく事をやろうとしている所もあります。ですので、認定こども園や幼保一体化をここで提言していくという事もありますが、ただ、時間ありませんので、そこまでは行きにくいかもしれません。

委員

表現としては、新しい制度の事を鑑み、現時点においては、こういう結論であるとするしかないと思います。幼稚園が、幼保連携型認定こども園になるというのは個人的には正しい選択だとは思いますが。民間の保育園の場合は、基本的に今より経営状況が悪くなるのでなければ、幼保連携型認定こども園になっていくだろうということは大体の予想です。公立の場合

は、財政的な裏付けは自前でやらなければならないというのが 1 点と、子育て支援が必須となるので、それにかかる人手を増やさなければならないことが増えてくる可能性があるので、そこをどう考えるのかということになってくると思います。

委員長

では、次回は 2 月 14 日（金）19 時としますので、宜しくお願いいたします。

4 閉 会

副委員長

会が進むにしたがって、委員様方の意見も増えてきました。やはり、意見を聞くたびに、「はっ」とするようすばらしい意見が出てきますので、もっともっと発言して頂ければいいのかなと思います。これをもちまして、閉会といたします。